レベル	科目名	担当者 （ふりがな）	曜日・時限	教室	目標	授業内容	テキスト	成績評価法
2	日本語２総合B	横山　和子 （よこやま　かずこ）	月曜・２限	N313	日本社会の理解につながる文章を読み、読解力をつけるとともに、テーマにそって自分の意見を論理的に表現てきるようになる。	異文化コミュニケーション」「公共の場でのマナー」「自分史」の３つのテーマで、図書、新聞記事、統計資料などを読み、現代日本社会についての理解を深める。内容を予測しながら文章を読む力、読みとった内容を日本語で表現する力、物事に対する自分の意見を論理的に述べる力をつけることを目指す。 ●テーマごとに、発表などの活動を行います。 ●扱うテーマは26年春学期とは異なるので、26年春学期の受講者にとって学習内容が重なることはありません。	プリント配付	授業への積極性50%、 活動（内容・日本語）50%
	日本語２会話B	荒井　直美 （あらい　なおみ）	火曜・１限	N205	自分の考えや気持ちを伝(つた)えることができるようになる。具体的(ぐたいてき)なまとまった談話(だんわ)が理解(りかい)でき、抽象的(ちゅうしょうてき)な内容についても説明、主張できるようになる。	自分の考えや気持ちを伝えることや、具体的なまとまった談話が理解できるようになるために、教科書を使って会話練習をします。具体的には、ペアワークやロールプレイ、グループディスカッション、スピーチをする予定です。	清水崇文編『みがけ！コミュニケーションスキル　中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』スリーエーネットワーク	授業参加度（出席・授業態度） 50%、課題20%、会話練習の取り組み20%、スピーチ10%
	日本語２作文B	江口　典子 （えぐち　のりこ）	金曜・１限	N313	自分の意見を述べ、待遇表現が使えるようになる。	論理的な文章の書き方や、レポート作成に必要な知識・技術を学ぶことを目的とする。授業では、日本語の文章を書く際のルールや表現を確認しながら、さまざまな文章を書く練習を行う。文章の構成や書き方を理解し、テーマに沿って自分の考えを論理的に書けるようになることを目指す。また、授業中はクラスメートと書いた文章を読み合い、互いにコメントする活動も行う。	二通信子・佐藤不二子『新訂版留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク	授業参加度（出席・グループ活動）40%、課題・発表60%
	日本語２文法B	小池　恵己子 （こいけ　えみこ）	木曜・１限	N313	中級後半～上級の文法項目を習得する。	意味や形が似ている表現や文型の違いを理解し、それらの使い方を学びます。使い分けができるかどうか練習問題でチェックし、自分でも短文を作ってみましょう。また、教科書だけでなく、新聞の記事を読んで、実際に使われている表現や文型を文法的に説明するグループ活動をおこないます。	『くらべてわかる中級日本語表現文型ドリル』Jリサーチ出版	試験60%、課題・提出物20%、授業への参加度20%
	日本語２漢字B	石崎　晶子 （いしざき　あきこ）	火曜・２限	N205	750字程度の漢字とその漢字を使った言葉を学習し、運用できるようにする。	漢字の意味とその漢字を使ったことばの意味と使い方を学んでいく。 今学期は、教科書の奇数課（第1課、第3課、第5課、第7課、第9課）を、だいたい2回で 1課学習する予定。 クラスでは漢字から語彙を広げたり、漢字語彙を使った文を作るなどの活動を中心にする。 毎回、クイズを行う。	『Intermediate Kanji Book 漢字1000 Plus, Vol.1』凡人社 [改訂第３版]	クイズ 40%、課題 40%、授業参加度 20%
	日本語２講読B	米本　和弘 （よねもと　かずひろ）	木曜・２限	N401	具体的な文章内容で、ある程度の長さの文章が読めるようになる。	この授業では，新聞記事や短いエッセーなど，さまざまな文章を読みながら，文章を正確に読み取る力を身につけます。文章の内容だけでなく，文章の構成や話の流れ，筆者の考えや伝えたいことを読み取る練習をします。また，新しい単語や表現を学び，話し合いや発表を通して，読んだことについて自分の考えを日本語で伝える力も伸ばします。	プリント配布	授業参加度（出席・授業活動への積極的参加）40%、 課題（授業準備・個人課題）60%
	日本語２聴解B	新谷 あゆり （しんや　あゆり）	金曜・２限	N313	具体的なまとまった談話が理解でき、抽象的なものも流れが理解できるようになる。	スピーチ・発表・ニュースなどを聞いて、内容を理解する練習をする。ディクテーションと漢字の読みの試験も実施する。	プリント配布	平常点（出席・参加度・課題）30% 小テスト・期末テスト70%
	日本語２特別演習B ［マンガで学ぶ日本語］	宮本 典以子 （みやもと　ていこ）	水曜・２限	N313	話し言葉やマンガ特有の表現が理解できるようになる。自分の考えが伝えられるようになる。	マンガやアニメの鑑賞（かんしょう）を通して、よく使う話し言葉を学びます。 今期は「学園」をテーマにした作品をメインにし、その他のテーマの作品も扱（あつか）う定です。言語表現の学習等はピア活動とします。授業のはじめにマンガの多読タイムを取ります。また、日本のマンガについての発表や交流タイム等のグループワークを1，2回行ないます。作品ごとの課題シート、まんが多読シート、発表資料等を提出します。	プリント配布	授業参加度40%、提出物40%、 発表20%

2	日本語２特別演習B ［ビジネスで学ぶ日本語］	福島　恵美子 （ふくしま　えみこ）	木曜・３限	N313	具体的なビジネス場面において、どのような会話をするのかがわかるようになる。	ビジネス場面に必要な敬語表現について学習しながら、会社での自己紹介、電話応対、アポイントの取り方、許可求めの仕方など基本的なビジネスコミュニケーションについて学習する。1月に発表を行うが、テーマについては相談して決める。	プリント配布	授業参加度（出席・授業態度）40%、期末テスト20%、発表20%、課題（宿題を含む）20%
	日本語2/3特別演習B ［多読］	桂　千佳子 （かつら　ちかこ）	金曜・３限	N313	「多読TADOKU」の特徴を理解し、実践することで、日本語をより母語に近い使い方ができるように目指す。	「勉強するモード」から「自分のことばとして使うモード」への切り替えができるように目指す。 ①単語の意味や文法を気にしないで、「書かれている内容」について自分の中で対話できるように読む。 ②同じ場面でも、一人一人の理解が多様であることが実感できるよう、読み物などを通した対話のワークを行う。 ③学期末プロジェクト「発表」：「勉強するモード」と「自分のことばとして使うモード」のちがいについて、自由に発表する（ストーリー・動画・ゲーム・音楽・絵などの創作・今学期の取り組みへの感想・読み物紹介など、なんでもよい）	教室に準備してある多読用の読み物、多読に適したサイト紹介などから好きなものを選んで読む。	読書記録の提出（本の冊数は関係ありません）50%、 最後の発表　50%
	日本語１/２特別演習 B ［プロジェクト］	伊能　裕晃 （いのう　ひろあき）	月曜・１限	N313	日本人学生とのディベートやグループ活動を通して、日本語の総合的な運用能力を高める。	この授業は、日本人学生と一緒に日本語でディベートを行う方法を学ぶ授業である。最初に、ディベートの基本的な練習をした後、学期の前半は、身近なテーマでディベートを行う。学期の後半には、現代社会の様々な問題について、資料を調べ、準備をして、ディベートを行っていく。学期の途中で、生成ＡＩを使ったディベートの練習なども行う。 この授業は学芸大の日本人学生のための授業「学芸フロンティア科目Ｆ」と合同で行われる。日本人学生と毎回会話をする授業であるため、この授業に参加する学生にはある程度の日本語の聴解力と語彙力が必要となる。	プリント配布	授業への参加度(出席、授業態度)40%、課題30%、ディベートの評価30%